

# 第4章

## インタビュー場面における 相互行為分析

ある高齢女性に対するビデオ  
分析結果から

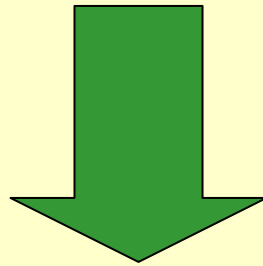
3班



【インタビュー配置図】

# 1.注目部分

- ・ インタビュー IRとIEによる質問－応答



+ Mによる参与

- ・ Mの振る舞いが今回のインタビュー場面にどのような機能を果たしているのか？
- ・ その時のMの参与の仕方や配慮に注目

## 2.K - Zの{IR - IE}関係とM

- (表1) 選好 / 非選好

	定義	マークの意味	例
選好的応答 (preference organization)	マークされない (unmarked)	・躊躇がない ・遅延がない	依頼の応諾・相手 への賞賛
非選好的応答 (disprefered organization)	マークされる (marked)	・躊躇がない ・遅延がない	依頼の拒否・自己 肯定

・ Z「希望もないし、望もない」(4行目) ~ K「いやいや」(6行目)

自分を誉める・過大評価しないことに対しての  
否定 選好されるもの

しかし、  
相手の発言を否定 相手を批判  
処理策

部分肯定

# 3.K(IR)の補助

## (1)注目部分

K = 「質問」 Z = 「答え」 K = 「コメント」という隣接対(1~5行)  
の後の7秒間の沈黙 Kに属している

しかし  沈黙後に話し始めたのはM(6行)

## (2)MとZの振る舞い

\* Mは、Kが沈黙し、話そうとしていないことを認識

「Zさん」と、話し始めにZを明示的に名指し

ZがIEであること、Zが答えるべきであることを認識

= この発言は『Zに向けた質問である』とマーク

\* Zの振る舞い

自分の名前を直接呼びかけられることで、Mによる発話が  
自分に対する「質問」だと認識

Mの質問に対し答えることが可能となった

## \* 順番取りシステム

「会話のなかには話す順番を配分する規則が働いている。その場合、もし今の話し手が、呼びかけや質問等により次の話し手を選択したならば、その選択された者は次に順番を取って発言

する権利を得、かつその義務を負う」サックス  
Mは呼びかけによって次の話者Zを選択し、  
選択されたZも答える権利を得ることになった

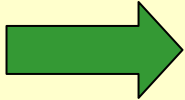
\* 『質問する』というIRの役割をKに代わってMが果たした  
その際Mは、KとZがそれぞれ「IR」「IE」であることを認識  
Kに直接答えずに、Zに質問することでそれぞれの立場を  
争奪しないよう配慮しつつ、振舞っている

# 4.Z(IE)の補助

## (1) 注目部分

給食宅配サービスを受けている「当事者」= Z

この制度についてMは知っている、Kは知らない

\* Kが「どちら？」と質問  当事者であるZより先にMが答え始める

## (2) 共同で答えを達成すること

\* 給食宅配サービスについてZとMは共に「知っている者」、Kは「知らない者」 = Mは2行目で「あっ、ほうやな」と発言することで自らを「知っている者」としてカテゴリー化

「知っている者」であるMも「当事者」であるZと同様、「知らない者」Kの質問に対し回答する権利がある



## \* Mが回答することになった可能性 \*

(注) \* 給食宅配サービスについてZとMは共に「知っている者」、Kだけが「知らない者」


「知っている者」であるMもZと同様、「知らない者」Kに対して回答する権利がある

Kの質問に対し自らが答えることで、自分をただの「聞き手」ではなくKとZの「仲介者」というカテゴリー化 会話の参与の枠組みに参加しようとする姿勢

Zは高齢であるため、Zより自分の方が正確に答えることができるであろうとZをフォローした

「第三者」から、Zの「補助回答者」「Zより知っている者」とカテゴリー化

## \* 注意すべき点 \*

- Mの発言は一見Zに対する割り込みのように見える  
しかし  Mの視線 = 話し始めた時はKに向けられているが、途中でZに視線を向き変え、『～しとくんな』という付加疑問の形でZに確認を得ている

Kに直接答えることがないよう意識、最終的にはZが答えるように促す

= Mの発話はKに対するZの返答の一部

Kの質問に対しMとZが共同で答えを導いている

## 5.まとめ

\* MはIR、IEの両役割を兼ね、場面によってカテゴリーを切り替えることでMとK、ZとMが共同で質問や答えを達成することが可能となった

\* Mによる発話

- KやZに代わって話題を展開させる働き
- IEであり、高齡でもあるZを補助する働き
- Kに対してよりスムーズな説明を確立させる働き

\* Mの振る舞い方

Kに直接答えることがないように、最終的にはZが答えるようにKやZに対し配慮

KとZによる「IR」「IE」関係を崩すことがないように維持

今回のインタビューが単なるKとZによる「質問」「答え」というカテゴリー対で成立しているのではなく、第三者のMによる様々なカテゴリーの変化によって、インタビューをよりスムーズに、より深く成立させることが可能となっていること、Mのカテゴリーの変化をKやZも理解し、何のトラブルも起こることなく共同でインタビューを達成させていることが分かる